



とやまあさひ

国道8号（富山朝日地区）防災対策方針として 山側バイパスによる別線整備ルート（案）が妥当と判断

国道8号（富山朝日地区）防災検討委員会 検討結果

このたび、国道8号（富山朝日地区）防災検討委員会において防災対策の基本方針（山側バイパスによる別線ルート（案））がまとまりましたので、お知らせいたします。

今後、ルート（案）検討に必要な調査を行い、詳細な検討を進めて参ります。

「国道8号（富山朝日地区）防災検討委員会」

富山河川国道事務所が管理する国道8号のうち、富山・新潟県境部を対象に、災害危険箇所や、道路交通確保に関する様々なリスクに対する課題等を明らかにすると共に、求められる道路機能、防災対策について検討、評価を行い、有識者から技術的意見や助言をいただくことを目的に設置。

お問い合わせ先



パレットとやま

■計画課長 ほりぐち じゅん 堀口 淳

国土交通省 北陸地方整備局 富山河川国道事務所

〒930-8537 富山市奥田新町2番1号 TEL: 076-443-4717(直通) FAX: 076-443-4718

最新情報は
こちら



[事務所HP]



[X(旧Twitter)]



[YouTube]



[Instagram]

HP <https://www.hrr.mlit.go.jp/toyama/>
X(旧Twitter) https://twitter.com/mlit_toyama
YouTube https://youtube.com/@mlit_toyama
Instagram https://www.instagram.com/mlit_toyama

X(旧Twitter)等の映像・画像は報道資料として使用可能です。使用においてはクレジット表記をお願いします。

1. 国道8号(富山朝日地区)防災検討委員会

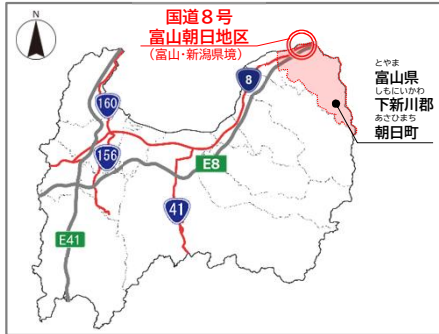
目的

富山河川国道事務所が管理する国道8号のうち、富山・新潟県境部を対象に、災害危険箇所や、道路交通確保に関する様々なリスクに対する課題等を明らかにすると共に、求められる道路機能、防災対策について検討・評価を行い、有識者から技術的意見や助言をいただくことを目的に設置。

開催経緯

令和6年 2月22日 第1回 開催
令和6年 3月14日 第2回 開催

位置図



委員名簿

◎委員長

	氏名	所属・役職
◎	川村 國夫	金沢工業大学地域防災環境科学研究所教授
	竹内 章	富山大学名誉教授
	原 隆史	富山大学都市デザイン学部教授

開催状況



国道8号(富山朝日地区)防災検討委員会 第1回開催状況

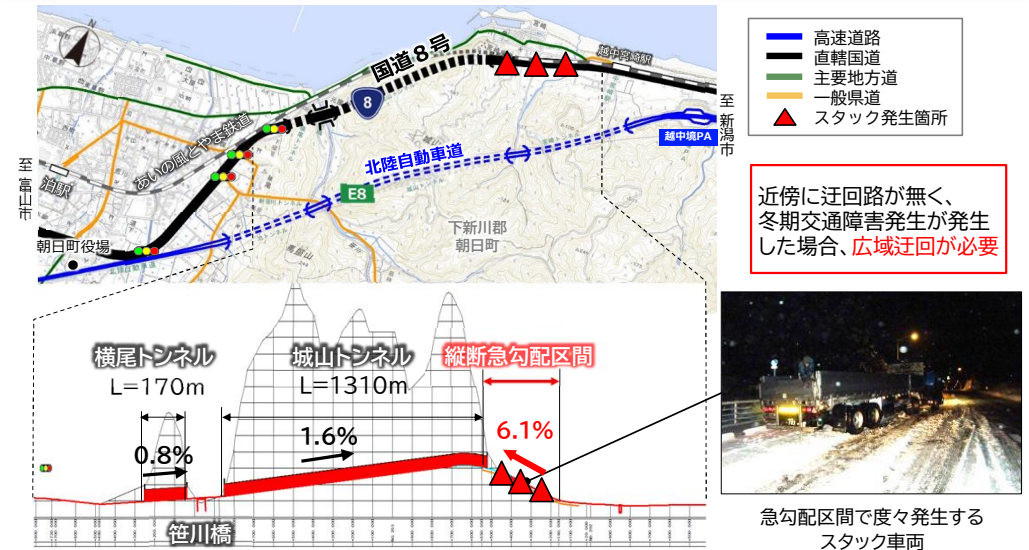
2. 富山朝日地区の課題

- 城山トンネル・横尾トンネル・笹川橋は、完成後約60年を経過し、**老朽化**が著しいだけでなく、**幅員が狭く**自転車、歩行者の通行が禁止されている。
- 城山トンネルの新潟県側に、縦断急勾配区間(6%超)区間が存在し、予防的通行規制区間に指定されており、降雪時には登坂不能車両が度々発生するなど、**冬期の交通障害が発生**。
- 城山トンネル・横尾トンネルの抗口付近に、国道8号に影響する恐れがある**土砂災害危険箇所の存在**が新たに確認され、国道8号が寸断するおそれがある。

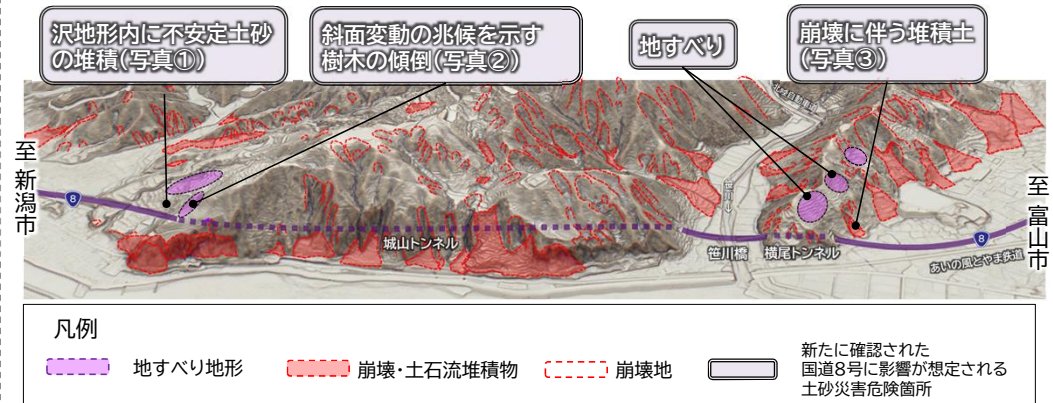
①老朽構造物・狭隘幅員の課題

城山トンネル (延長1,310m、昭和40年完成)	横尾トンネル (延長170m、昭和40年完成)	笹川橋 (延長40m、昭和39年完成)
つらら状の溶脱物	ひびわれが発生した覆工	ASRと推定されるひびわれ
4.5 0.5 3.0 3.0 0.5	4.5 0.5 3.0 3.0 0.5	1.0 3.0 3.0 1.0
自転車、歩行者の通行帯が狭い		

②冬期交通障害の発生



③土砂災害発生リスク



沢地形内に大量の未固結土砂が堆積し、沢頭部には湧水。土石流発生の可能性

斜面変動の兆候を示す斜面上方へ傾いた杉が断続的に分布

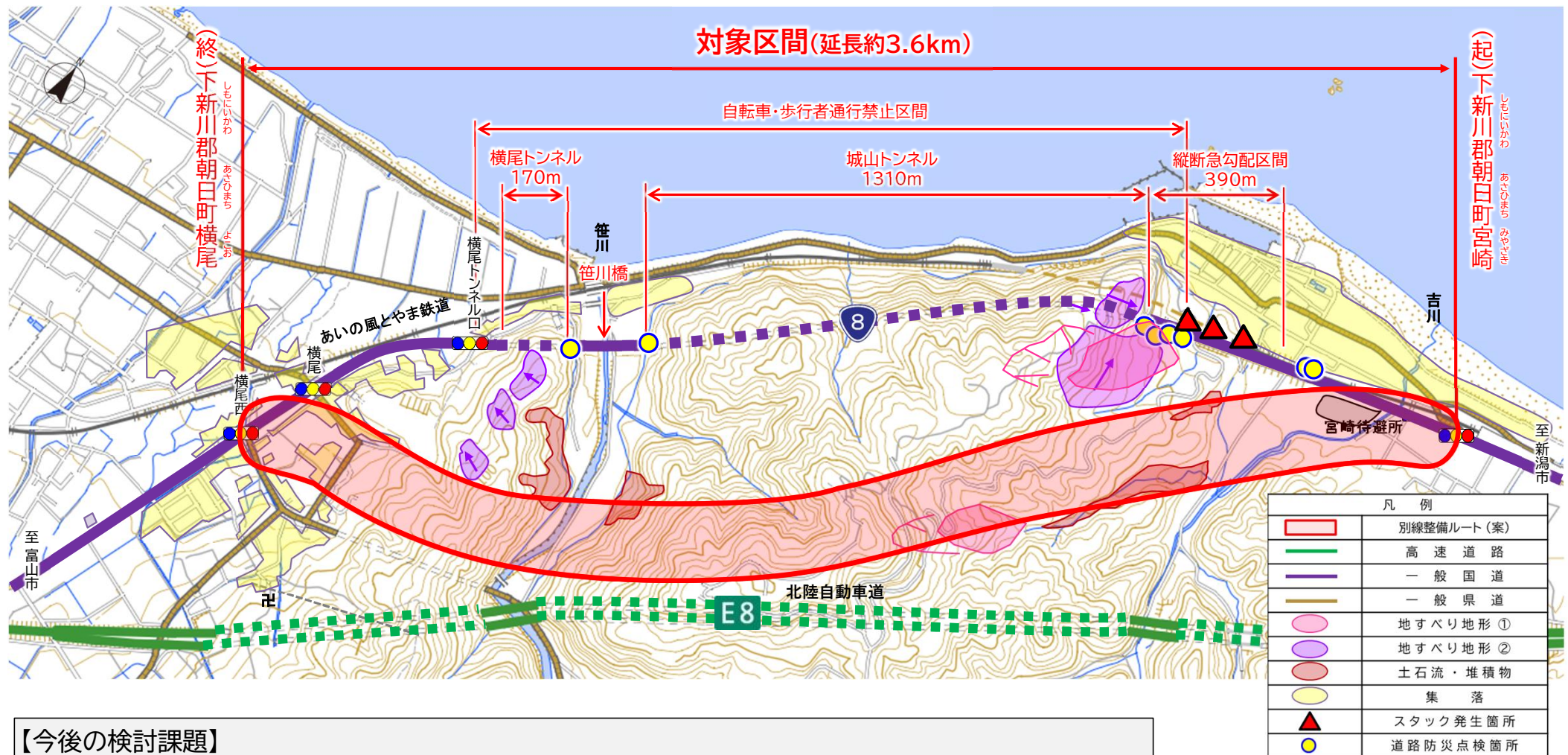
谷地形出口に堆積した崩壊土

※地すべり地形、崩壊・土石流堆積物、崩壊地、新たに確認された土砂災害危険箇所については、今後の調査で変わる可能性がある

3. 国道8号(富山朝日地区)の対策方針

「富山朝日地区」の課題解消を図るため別線ルートによる抜本対策を進める。

- ①竣工から約60年経過し老朽化が著しい狭隘トンネルの再改築により、信頼性の高い道路ネットワークの確保及び安全な交通環境を確保する。
- ②縦断急勾配区間(6%超)の解消により、積雪時のスタック等の交通障害の発生を抑制する。
- ③土砂災害危険箇所(地すべり・土石流)の回避により、災害に強いダブルネットワークを確保する。



【今後の検討課題】

○急峻な山々に囲まれた地形・地質特性の把握を行い道路構造の検討を進める。

地すべり地形①：防災科学技術研究所「地すべり地形分布図」
地すべり地形②：令和5年度新規調査

※地すべり地形、土石流・堆積物については、今後の調査で変わる可能性がある